

平成 30 年度 FD カンファレンス概要

テーマ：「学生が参加したくなる授業の作り方」

双方向的な授業をデザインし、学生が主体的に参加するしかけをつくることは、教育の質保証にとって不可欠な作業です。とはいえ、大学の資源も教員の時間も有限です。今回の FD カンファレンスでは ICT 特集を組み、教育効果を上げつつも教員の時間と労力を効率化する方法やティップスをご紹介しますとともに、信州大学の学生を知り、学生が主体的に参加するためのしくみを考えるコンテンツも並行してご提供します。

【プログラム(A)：ICT の活用】

上記のような状況の中、教育において、学生の主体的・対話的で深い学びを促進する一つの方法として、ICT（情報通信技術）の活用があげられます。ICT を上手に活用することで、教育資源の有効利用を図れることが、多くの事例で報告されています。これらの点に焦点を当て「ICT 特集」として、以下の企画を実施します。

PC やタブレットと WiFi ルーターをご持参いただきますと、自ら体験し、活用方法を検討していただけます。ぜひご準備いただき、奮ってご参加ください。なお、数に限りはありますが、WiFi ルーターはこちらでも用意いたします。

A1-LWS：小テストの活用（e-Learning センター）

学生の自学自習を促進して、学生自らが主体的に学習に臨む方策の一つとして小テストを中心とした eALPS の機能を解説し、その実践例を紹介します。また、その機能を体験し、活用方法を検討いただきます。

A2-WS：映像教材・コンテンツの活用（e-Learning センター）

映像録画と配信による反転授業や事前事後学習による授業参加の促進について、新たに e-Learning センターが導入した映像教材作成・蓄積・配信システム Kaltura の説明をするとともに、映像コンテンツの活用事例を紹介し、体験していただきます。

A3-WS：実際に e ラーニングを使ってみよう（小松川浩）

クラウド上の e ラーニング教材を見ながら、参加者が自分の科目や、入学前・キャリア等で、どのように活用することで有用な学習活動を促せるかを考える機会としていただきます。

【プログラム(B)：学生を知る】

B1-WS：調査から見る学生の実像（李敏・古里由香里）

「今時の大学生は勉強しない」という嘆きを近頃よく耳にします。はたして信州大学の学生は勉強に励んでいるほうなのか、それとも勉強に怠けているほうなのか。とりわけがんばれない学生は、どのような特徴を持っていますか。本セッションにおいては、「新入生調査」、「大学生調査」（4 年次生を対象）、「学習時間に関するアンケート」、「授業アンケート」などの調査結果に基づき、信大生の授業外学習時間、信大生の学習実態をみたうえで、学生が主体的に学ぶ方策について参加者と一緒に考えていきます。

B2-WS：支援の必要な学生の見つけ方（加藤善子・田口多恵）

主体的に参加できない学生、自分から頑張れない学生を、どのように判断して支援につなげますか？支援を必要とする学生は自分から支援を求めることは少ないため、特に成績や学生調査データのない初年次には、教職員が的確な「見立て」をし、学生を支援につなげる必要があります。通常の授業内でのやり取りの中で、そのような学生をいかに見つけ、学生にアプローチして支援を受けてもらうか、ケーススタディを通して皆で考えていきます。

B3-WS：授業をデザインする（加藤鉦三）

「教育の質保証」が当たり前に求められています。しかし高尚な概念を操る必要はありません。「授業のあちらこちらに学生が超えるべき小さな山を配置しておき、学生が努力してそれを超えていき、教員はそれを成績評価の手

段とする」というような形を作ることができれば、「教育の質保証」を個人レベルで達成できていることになります。このような授業では、学生の授業参加が確保され、その結果、教員と学生の両方の達成感が高くなることでしょう。このセッションでは、ご自分の授業でこのようなデザインを取り入れるとしたらどういうシラバスになるのかをご一緒に考える機会にしたいと思います。

【全体プログラム】

ALL-WS1：「ようこそ&アイスブレイキング」（平野吉直）

開会にあたり、身体を動かしてリラックスし、互いを知ることで、研修に楽しく参加していただく準備運動をします。

ALL-WS2：「研修の目的を設定する」（加藤善子）

二日間の研修を始めるにあたり、それぞれの目標を設定していきます。教員同士が興味関心を共有することも目的にしています。

ALL-L：「e ラーニングを活用した教育の質向上の取組（事例紹介）」（小松川浩）

大学 e ラーニング協議会 (<https://www.uela.cloud/>) に加盟している大学の教材の活用事例を通じて、学生の主体的な学びへとつながる e ラーニング活用について理解を深めていただきます。（同協会におけるこの ICT プロジェクトの世話人校である千歳科学技術大学の小松川教授にご講演いただきます。）

ALL-WS3：まとめとアンケート（加藤善子）

二日間の研修で、各先生方にとってどのような成果があったかを振り返ります。評価を行った後、解散です。

担当者：

千歳科学技術大学 教授：小松川 浩

信州大学 e-Learning センター：新村 正明，谷塚 光典

信州大学学生相談センター：田口 多恵

信州大学高等教育研究センター：平野 吉直（センター長），加藤 鉦三（副センター長），矢部 正之，
加藤 善子，李 敏，古里 由香里

☆「プログラム A」と「プログラム B」が同時進行する「カンファレンス」形式（分科会形式）で開催します。参加者はメニューを選択できますので、様々な教職員と交流をしながら、それぞれのプログラムの中から各自の興味や必要に応じて参加することができます。対象は信州大学の全教職員および県内高等教育機関の教職員です。異分野ならびにアプローチ・手法の異なる教育に関する交流を通して新たな視点を得ることができるでしょう。

☆4 月の新任教員研修のフォローアップ研修として実施します。本学で教育にあたられる上で有用な情報等を得られる機会であり、同じ学部・他学部の先生方と交流を深め、互いに学び合う良い機会でもありますので、平成 30 年 4 月の新任教職員研修対象者のみなさまは原則としてご参加ください。